
千年恋文

諒汰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千年恋文

【Nコード】

N1317E

【作者名】

諒汰

【あらすじ】

ここはガクシエと云う名の国。その国の王家を守る家柄、竈家の前の門。艶のある黒髪に紫の瞳を持つ少年と、竈家の長女が出会い、
、、、、、、、、、、、。なんでこーなる!?!どーしてそーなる!
?ちょっと悲しい、でも楽しい。そんな魂からの、恋文小説が今!
貴女の元へ参ります!

巻

ここはガクシエという名の大きな国の王都周辺。
王城や貴族邸があふれるこの都市の一角に、一際立派な屋敷が一つ。
その屋敷は代々王を護衛する竈一族の本邸である。

「この出来損ないが！何故こんな事さえもできないのだ!？」

「っ！申し訳ありません！父様！」

「お前なんぞ破門だ！出て行け！」

「、、、出ては行かぬと申しましたら？」

「お前の様な恥さらしなど、俺が殺す。」

「分かりました。殺されるくらいなら出て行きます。」

「、、、あれ？姉様！何所行くの？」

「洸、、、。姉さまはちよつと母様の所に、、、。」

「姉様！姉さまも行ってしまふの!?!母様のように!」

「ええ、、、。悪いわね、、、洸、、、。」

「なら僕も一緒　　っ」

少女はいとしい弟に手刀を喰らわせた。とても優しく。だけど深く。
初めて、大切な弟に手を上げた。母が父に反抗して出て行ってしま
ったときに彼は暴走した。

父は彼を殴ったが、少女は強く、とても強く、抱きしめた。

裏切るような事をしてごめん。でも洸はここに居なくてはならない
存在なのだ。

一緒に行くなどは、考えてもいけないこと。そうゆう立場なんだ
から。

本当は、私の事を忘れるのが一番いい。でも私は魔術を心得ていな

!？」

「あ？ああ、なんも付いて無いけど、瞳が綺麗だなーって思って。」
「何がいいもんか。魔族の証だぞ。この眼は。」

「あ、そーいや、何用？つてか誰？」

「おまえなあつ、、、。コロコロ変わりすぎだろ、、、。」

「な、ま、え、」

「あーはいはい。俺は紅、托疾。優様にお前を村に連れて来いって
言われたんだ。」

「母様に!?!？」

「ああ。だから付いて来い。」

「あ、、、でも声が、、、。」

「声？何だそれ。」

「えつと実『ウイルと共に行くが良い。レエンメイよ。』」

「レエンメイ、、、？ウイル、、、？何、、、その名前、、、。」

「は？ウエル？何それ。」

「え？紅君の事じゃないの？」

「は？俺はウイルなんて名前、知らねえけど。」

「、、、なら、まあいいや。あ、私は竈、茄月。よろしく、紅君。」

「、、、頼むから紅君はやめてくれ。托疾でいいから。」

巻（後書き）

ここまで読んでくださった方、

ありがとうございます。

諒汰は感謝の気持ちでいっぱいです、。。。

破天荒なキャラばっかですが、なにとぞ最後まで
お付き合い頂けると、嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1317e/>

千年恋文

2010年10月23日03時50分発行